

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	1級自動車工学科	夜・通信	324 時間	320 時間	
	自動車車体工学科	夜・通信	324 時間	240 時間	
	2級自動車工学科	夜・通信	324 時間	160 時間	
	e モビリティ科	夜・通信	186 時間	160 時間	
	情報システム工学科 4 年制	夜・通信	336 時間	320 時間	
	情報システム工学科 3 年制	夜・通信	300 時間	240 時間	
	情報システム工学科 2 年制	夜・通信	300 時間	160 時間	
	情報システム科	夜・通信	189 時間	160 時間	
	ゲーム開発科 4 年制	夜・通信	375 時間	320 時間	
	ゲーム開発科 3 年制	夜・通信	240 時間	240 時間	
	ゲームグラフィック科	夜・通信	495 時間	240 時間	
	建築デザイン科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	1級建築士専攻科	夜・通信	200 時間	160 時間	
	2級建築士専攻科	夜・通信	200 時間	80 時間	
	電気電子工学科	夜・通信	684 時間	160 時間	
	電気工事士専攻科	夜・通信	684 時間	80 時間	
	放射線工学科	夜・通信	276 時間	160 時間	
	ドローンスペシャリスト科	夜・通信	204 時間	160 時間	

	情報ゲーム・大学 高度情報専攻	夜・通信	540 時間	320 時間	
	情報ゲーム大学 ゲーム開発専攻	夜・通信	360 時間	320 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyouthoukokuai-wiz.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyouthoukougai-wiz.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025年6月10日 ～2027年度定時 評議員会終結の時	政策的観点
非常勤	団体職員	2025年6月10日 ～2027年度定時 評議員会終結の時	教育統括的視点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
授業計画書の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA(100点～80点：優)、B(79点～70点：良)、C(69点～60点：可)、D(59点～：不可)の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価においては、客観的指標を設定するために、授業科目ごとの成績評価を100点満点に換算した上で取得点数の平均を求める仕組みを導入している。 各学生の平均得点と相対順位を把握する成績評価方法は以下の通りである。 ・学科単位を基本として全学生が履修した科目の総得点から平均を求め、「成績一覧表」により学年毎の順位を求める。 ・学生の平均得点と相対順位をもとにした「得点分布表」により、学科学年ごとの成績の分布状況を把握する。 この成績評価方法は半期ごとの集計も可能な方法となっており、「前期」、「後期」、「通年」の成績分布が把握可能な方法である。 成績評価の実施については、これらの成績評価の方法により学科学年ごとに実施しており、客観的指標の設定については下記HPにて公開されている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業に必要な条件については、 ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年2月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html

様式第 2 号の 4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 4－①を用いること。

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html
収支計算書又は損益計算書	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html
財産目録	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html
事業報告書	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html
監事による監査報告（書）	https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	1 級自動車工学科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3,969 単位時間	1,035 時間	450 時間	2,484 時間	0 時間	0 時間
			3,969 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
110 人		81 人	0 人	3 人	0 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・年間出席率 90%以上（自動車系学科 95%以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、民間整備工場			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 1 級自動車整備士、二級 2 輪自動車整備士、低圧電気取扱業務特別教育、中古自動車査定士、ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育			
（備考）（任意記載事項） 卒年次生 24 名うち 1 名休学			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	自動車車体工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	2, 961 単位時間	864 時間	180 時間	1, 917 時間	0 時間	0 時間	
			2, 961 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
60 人		32 人	0 人	2 人	0 人		2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、民間整備工場、钣金・塗装工場			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士、二級 2 輪自動車整備士、中古自動車査定士、有機溶剤取扱主任者技能講習、ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	2 級自動車工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,971 単位時間	621 時間	144 時間	1,206 時間	0 時間	0 時間
			1,971 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
65 人		36 人	0 人	4 人	0 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率 90%以上（自動車系学科 95%以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19 人 (100%)	0 人 (0%)	19 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、民間整備工場			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士、中古自動車査定士、ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育			
（備考）（任意記載事項） 卒年次 20 名うち 1 名休学			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	1 人	2.6%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	e モビリティ科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,706 単位時間	665 時間	816 時間	225 時間	0 時間	0 時間
			1,706 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		2 人	0 人	1 人	0 人	1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 7 年度新設学科のため卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム工学科 4 年制		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3,654 単位時間	537 時間	1,962 時間	1,155 時間	0 時間	0 時間
			3,654 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		75 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・資格別クラス分けによる国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を審査員とした学内アプリコンテスト特別授業。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業およびインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	人 (0%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、アプリケーションエンジニア、テクニカルエンジニア			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理安全確保支援士、データスペシャリスト、応用情報技術者試験 ネットワークスペシャリスト			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72 人	1 人	1.4%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム工学科 3 年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2, 739 単位時間	459 時間	1, 536 時間	744 時間	0 時間	0 時間
			2, 739 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
85 人		87 人	10 人	2 人	9 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・資格別クラス分けによる国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を審査員とした学内アプリコンテスト特別授業。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業およびインターンシップの推進。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (92.3%)	2 人 (7.7%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、ネットワークエンジニア、Web エンジニア、プログラマ			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
90 人	2 人	2.2%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム工学科 2 年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1, 821 単位時間	459 時間	993 時間	369 時間	0 時間	0 時間
			1, 821 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		10 人	2 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・資格取得においては学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） プログラマ、テストエンジニア			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報セキュリティマネジメント試験、情報処理技術者能力認定試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,824 単位時間	420 時間	1,149 時間	255 時間	0 時間	0 時間
			1,824 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		8 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・資格別クラス分けによる国家試験対策授業。 ・業界最前線で活躍する業界人を審査員とした学内アプリコンテスト特別授業。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業およびインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (72.7%)	3 人 (27.3%)
（主な就職、業界等） IT 事務、カスタマエンジニア、CAD オペレーター			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） MicrosoftOfficeSpecialist、Web クリエイター検定、ビジネス能力検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲーム開発科 4 年制		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3,513 単位時間	405 時間	15 時間	3093 時間	0 時間	0 時間
			3,513 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		32 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80% 以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率 90% 以上（自動車系学科 95% 以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 5 年度新設学科のため卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	ゲーム開発科 3 年制		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	2,622 単位時間	360 時間	15 時間	2,247 時間	0 時間	0 時間	
			2,622 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
90 人		39 人	1 人	1 人	5 人		6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80% 以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率 90% 以上（自動車系学科 95% 以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (96.2%)	1 人 (3.8%)
（主な就職、業界等） ゲームプログラマー、ゲームプランナー、ゲームクリエイター			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） C 言語プログラミング能力認定試験、情報処理技術者能力認定試験 ビジネス著作権検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53 人	1 人	1.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	ゲームグラフィック科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2,880 単位時間	195 時間	15 時間	2,670 時間	0 時間	0 時間
			2,880 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15 人		3 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。

成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） ゲームグラフィックデザイナー、キャラクターデザイナー、3DCGデザイナー ゲームイラストレーター、ゲーム背景デザイナー			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 色彩検定、CGクリエイター能力認定試験、Photoshop®クリエイター能力認定試験 ビジネス著作権検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,762 単位時間	720 時間	612 時間	430 時間	0 時間	0 時間
			1,762 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		44 人	0 人	2 人	10 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を学ぶ現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	11 人 (52.4%)	9 人 (42.8%)	1 人 (4.8%)
（主な就職、業界等） 設計事務所、建設会社、工務店、ハウスメーカー			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2 級建築施工管理技術検定試験、建築 CAD 検定 2 級、宅地建物取引士資格試験			
（備考）（任意記載事項） 卒年次生 22 名のうち 1 名退学			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	2 人	4.5%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	1 級建築士専攻科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼間	1,620 単位時間	900 時間	440 時間	280 時間	0 時間	0 時間	
			1,620 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
5 人		0 人	0 人	1 人	1 人		2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80% 以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率 90% 以上（自動車系学科 95% 以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を学ぶ現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	2 級建築士専攻科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼間	800 単位時間	240 時間	200 時間	360 時間	0 時間	0 時間	
			800 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
5 人		10 人	0 人	1 人	1 人		2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。 ・企業と連携して現場を学ぶ現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (85.7%)	1 人 (14.3%)
（主な就職、業界等） 設計事務所、建設会社、工務店、ハウスメーカー			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気電子工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	2,058 単位時間	912 時間	0 時間	1,146 時間	0 時間	0 時間	
			2,058 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人		21 人	0 人	1 人	3 人	4 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業および現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気工事業、電気通信工事業、消防施設工事業			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第1種電気工事士、2級電気工事施工管理技術検定、工事担任者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	電気工事士専攻科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼間	1, 209 単位時間	408 時間	0 時間	801 時間	0 時間	0 時間	
			1, 209 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
10 人		0 人	0 人	1 人	3 人		4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80% 以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率 90% 以上（自動車系学科 95% 以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知する。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業および現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1 人 (100%)	0 人 (0%)	1 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気工事業			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第 1 種電気工事士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	放射線工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,728 単位時間	1,386 時間	0 時間	342 時間	0 時間	0 時間
			1,728 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		18 人	1 人	1 人	2 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業および現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 原子力業界、放射線管理、環境モニタリング			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第一種放射線取扱主任者、第二種放射線取扱主任者、エックス線作業主任者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	1 人	6.7%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	ドローン スペシャリスト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,734 単位時間	510 時間	408 時間	816 時間	0 時間	0 時間
			1,734 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		12 人	1 人	1 人	3 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率 90%以上（自動車系学科 95%以上） ・科目評価すべての科目 C 評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年 2 月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については HP のみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・資格取得においては学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・業界最前線で活躍する一流業界人を招聘しての特別授業。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） ドローンパイロット、ドローンエンジニア、ドローンインストラクター			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 1 等無人航空機操縦士、2 等無人航空機操縦士、第 3 級陸上特殊無線			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報ゲーム・大学科 高度情報専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3,711 単位時間	2,112 時間	1,563 時間	36 時間	0 時間	0 時間
			3,711 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5 人		0 人	0 人	1 人	2 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知する。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業および現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 7 年度新設学科のため卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報ゲーム・大学科 ゲーム開発専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3,710 単位時間	2,055 時間	660 時間	995 時間	0 時間	0 時間
			3,710 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5 人		0 人	0 人	1 人	2 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・年間出席率90%以上（自動車系学科95%以上） ・科目評価すべての科目C評価以上 ・各学科の定める卒業、進級基準検定の取得または進級、卒業制作課題提出または養成課程修了 すべてを満たす必要がある。 卒業、進級の可否は毎年2月に実施する卒業、進級判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定についてはHPのみならず、学生の手引きに記載し学生・保護者に周知する。	
学修支援等	
（概要） ・クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 ・国家試験対策では学業の進捗状況に応じた補習授業の実施。 ・企業と連携して現場を体験する産学官連携授業および現場見学の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 7 年度新設学科のため卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
1 級自動車工学科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
自動車車体工学科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
2 級自動車工学科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
e モビリティ学科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
情報システム工学科 4 年制	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
情報システム工学科 3 年制	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
情報システム工学科 2 年制	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
情報システム科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
ゲーム開発科 4 年制	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
ゲーム開発科 3 年制	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
ゲームグラフィック科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
建築デザイン科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
1 級建築士専攻科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
2 級建築士専攻科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
電気電子工学科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
放射線工学科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
ドローン スペシャリスト科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
電気工事士専攻科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
情報ゲーム・大学科	180,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
モバイル アプリケーション科	50,000 円	350,000 円	540,000 円	その他は施設設備費及 び施設維持費
修学支援 (任意記載事項)				
【各種特待生制度】 受験する際に書類審査・面接試験の結果、ランク判定により 5 万円～最大 80 万円の免除 【進級時特待生制度】 2 年生、3 年生および 4 年生に進級する際、一定の条件を満たした者に対して 10 万円もしくは 5 万円の免除				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会（加盟校：26 法人 113 校）により競技検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 福島県自動車整備振興会	2025. 4. 1～2026. 3. 31	公共団体委員
公益社団法人 福島県建築士会	2025. 4. 1～2026. 3. 31	業界団体委員
特定非営利活動法人 国際ゲーム開発者協会日本	2025. 4. 1～2026. 3. 31	業界団体委員
光栄電気通信工業株式会社	2025. 4. 1～2026. 3. 31	企業等委員
有限会社 山ノ井商事	2025. 4. 1～2026. 3. 31	企業等委員
福島大学 共生システム理工学類	2025. 4. 1～2026. 3. 31	教授
学校関係者評価結果の公表方法		
https://fsg-college.jp/jyouhoukougai-wiz.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://wiz.ac.jp/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H107320381168
学校名（〇〇大学 等）	国際情報工科自動車大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		179人（－）人	178人（－）人	186人（13）人
内 訳	第Ⅰ区分	59人	56人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	35人	34人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	28人	28人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	48人	50人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				186人（13）人
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人		
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人		

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。